

放課後等デイサービスにおける自己評価結果（公表）

公表： 令和5年2月28日

事業所名 放課後等デイサービス からふるしーど

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	1	活動スペースに対する児童の数は適切か	6	0	2021年は昨年に引き続き、感染症対策として、各児童のスペースを区切り、接触・共有を最小限とする等、濃厚接触とならない距離や時間を心がけている。
	2	職員の配置数は適切か	5	0	人員配置は法に則り適切に行い、補助職員を配置するなど余裕を持った配置としているが、職員の組み合わせや、児童の組み合わせにより、技術力強化の必要性を感じる場面がある。
	3	構造化、バリアフリー、視覚支援などの配慮を行っているか	3	3	移転に伴い、バリアフリー環境の整備を感じている。障がい特性に合わせた受入れを行える事業所の分化を進めていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためにPDCAサイクル（目標設定と振り返り）を行っているか	3	3	職員間の業務に対する温度差や、仕事への姿勢、スキルなどの温度差を補正し、専門職であることへの自覚と認識を醸成していく必要を感じている。
	5	保護者等向けの事業所評価アンケート等を実施し保護者の意見・意向等を把握し、業務改善につなげているか	6	0	行っており、ホームページで公開している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6	0	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	6	0	経営者等の人脈を活用し、定期的に客観的視点からアドバイスを得ている
8	支援の質や、業務を行う上でのスキル向上を目指した、学習や研修参加の機会を作っているか	4	2	事業所としては、研修の参加を推奨し、必要に応じた調整を行うと同時に、自主的な姿勢を尊重し、意欲のある職員には雇用形態を問わず、より積極的な研修機会を設けている。外部セミナーのアーカイブ共有なども行っている。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童ごとの支援計画を作成しているか	6	0	利用開始時や計画見直しだけでなく、保護者との細やかなコミュニケーションにより分析を行い、計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	6	0	利用開始時に必ず記入して戴く形式がある。
	11	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	3	0	児童発達支援管理責任者が、定期的に情報をまとめ、適宜提出している。
	12	活動プログラムの立案をチームで行っているか	3	1	日々、管理者が職員への構造化として明確な日間スケジュールを配布しており、だれがどこで、どの児童に対応するかなど、詳細に共有できているが、現場における児発管への報連相の徹底、日々の受け入れ前の情報共有のためのミーティング習慣徹底を再三再四指示・勧告してきたが、会社の指示を履行できていない状況があり、より強い対応を行う旨の周知を行った。専門職としての認識や改善が見られない場合は、厳しい対応を行い、サービスの適正化を強行する。
	13	活動プログラムが固定化しないよう工夫し、平常日、学休日、長期休暇等、状況に応じたきめ細やかな課題設定を行えているか	3	1	
	14	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	2	4	弊社の基本的な支援方針である、行動科学に基づいた根拠のある支援を行うことができる専門知識を持ち実践中に活用できるようにすべての職員を訓練することが目標ではあるが、個人差・温度差もあるため職員の役割分担を明確にし、より事業所の基準に沿った知識や支援技術を持ち合わせた職員を、雇用形態に関わらず登用し、統一した支援、根拠に基づく支援を先導していける体制の構築を進めている。
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	3	0	
	16	事業所の理念・支援方策や、児童ごとの支援方針を理解し、それに沿った統一した支援を行うよう努めているか	5	0	その日行われた支援に関して、全員が各自報告する仕組みを整えている。また、一部職員は、各児童の支援に関して児発管に具体的に報告するなど、情報の集約をできている。また、活動記録は、パスワードで保護されたオンラインページで確認できるようになっており、検証改善の環境を整えている。
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	6	0	
	18	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	0	厚生労働省のガイドラインの周知を定期的に行う。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	3	0		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	3	0	コミュニケーション面、仕事の進め方においても、専門職として必要なスキルを持つ職員が行うようにしているが、非

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	3	0	常に業務の負担が大きくなっており、他の職員のスキルアップ・意識向上により、業務を分担することが今後より必要となってくると考えている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	0	0	医療的ケアが必要な児童は現状利用していないが、度会特別支援学校在学児童が通所している為、医療従事者を配置し、発作対応を含む安全対応を行っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	3	0	必要な時に必要な連携や参加をするようにしている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	3	0	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	6	0	障がいの有無に関わらず、可能な交流を実施。英心高校との交流など。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	3	0	オンラインなど、形は変化したが連携をとるようにしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか	5	0	日ごろから常時連絡が可能なアプリなどにより、保護者との細やかな連絡を行っている為、相談などにも迅速に応じることができ、必要な情報や、事例解説など、具体的なサポートを行えるようにしている。また、ペアレントサポートプログラムを用意し、希望する保護者がマンツーマンで受講できる制度を整えている。職員がそのことを認識できるよう、周知を行う必要がある。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	2	1	
保護者への説明責任等	30	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	2	0	利用開始時に必ず説明しており、利用開始後も必要に応じて適宜説明を行っている。
	31	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	1	0	
	32	保護者会等の開催により、保護者同士の連携を支援しているか	0	5	現状、多忙で参加できないと考える保護者が多く、今後の希望を確認したうえで、希望者が一定数以上であれば開催する
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	1	0	担当者が適宜行っており、会社も把握している。できる限り問題が小さいうちに解消するよう心がけているが、問題が起こった場合は、双方の意見を確認したうえで、平衡の取れた判断を行うように心がける
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	5	0	情報発信に関してはオンラインで積極的に行っている。
	35	個人情報に十分注意しているか	5	0	全職員への周知と、署名を行い、罰則を規定する等、個人情報保護の意識付けを行っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための合理的な配慮ができているか	3	0	非常に理不尽な訴えも時折発生するものの、他の児童、利用者の福利、安定にも配慮し平衡の取れた対応を心掛けている
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	2	1	事業所の行事としてではないが、地域貢献を実現するための社会的意義のあるイベントを運営サイドが開催する等、可能な範囲での地域との交流を行えるよう努力している。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	6	0	マニュアルは策定されており、職員の書棚に設置されている。年間の訓練と、定期シミュレーションの実施を指示している。しかし、現場サイドで忘失することが多いと感じており、職員に対する構造化を進める必要性を感じている。また、定期的に業務に関するマニュアルを確認させ、確実に定期業務を履行されるよう常勤者に促す。保護者に対する周知は、より積極的な発信を推進していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	0	職員研修の中に、虐待防止、身体拘束に関する情報を含めている。記録の徹底を周知しているが、社内研修など、人が集まる状態を作りにくい一年であった為、社内での研修機会が激減し、全員に周知されていない可能性があり、別の周知方法を構築している。また、カメラによる確認により、不適切な対応を防ぎ、必要に応じた調整を行えるようにしている。身体拘束についての記録は法に基づき残している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	5	0	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、個別の支援計画に記載しているか	5	0	特におやつに関して、他の児童とは分けた管理をし、視覚的に誰でも判断できる構造化を行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	6	0	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6	0	作成し共有している。	